



一般財団法人 Ruby アソシエーション
2018年度 第1回定時評議員会 議事録

- 1 開催場所：公益財団法人 都道府県センター 都道府県会館 4F 403 会議室
東京都千代田区平河町 2-6-3
- 2 開催日時：2017年6月26日(火) 14:00～15:00
- 3 評議員総数及び定足数：現在総数13名、定足数7名
- 4 出席評議員数：10名
(本人出席) 石川明、出田健二、及川喜之、大場寧子、後藤裕蔵、立久井正和、中島宏
羽田昭裕、平松知江子、吉田正敏
(欠席) 最首英裕、森正弥、吉岡宏
- 5 出席理事：松本行弘、井上浩、笹田耕一、橋本明彦
- 6 事務局：前田修吾、横田早百合、江角俊秀
- 7 オブザーバー出席：高橋征義(日本Rubyの会)、角谷信太郎(日本Rubyの会)、
周藤万里絵(島根県)、大谷利行(松江市)、福間祐二(松江市)、本田智和(松江市)



以上のとおり評議員の出席があり本評議員会は適法に成立したので、出席評議員から平松知江子が議長として選出され開会を宣し、出席評議員から石川明、大場寧子が議事録署名人として選出された。先ず、冒頭で松本理事長より有意義な財団事業の実施に向け本日の議事進行、協議に期待する旨の挨拶があり、続いて議事に入った。

8 内容

■審議事項1：2017年度事業報告書

議長が事務局に報告を求め、前田事務局長が別添資料1に基づき2017年度事業報告書の説明を行った。
以下、質疑応答。

後藤評議員：昨年度の認定試験の受験者数、合格者数はどのくらいか。

横田事務局員：受験者数は年間約700名、合格率は6割程度で、概ね前年度と変わらない数字だ。

最後に、議長が本審議事項につき可否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認可決した。

■審議事項2：2017年度決算報告書

議長が事務局に報告を求め、横田事務局員が別添資料2の下記の書類に基づき、2017年度決算報告書の説明を行った。

(1) 貸借対照表 (2) 正味財産増減計算書 (3) 財産目録 (4) 財務諸表に対する注記

また、今岡監事による監査報告により、上記の書類につき綿密に監査した結果、いずれも正確かつ適切であることが認められた旨を報告した。

以下、質疑応答。

大場評議員：予定より少し黒字だったとのことだが、予定との差異のポイントを教えていただきたい。

横田事務局員：Ruby 開発及びその他支援事業の「その他助成」のところに確保していた予算が、確保していた額ほど使われなかった。また、標準維持事業にも予算を確保していたが、ほぼ実績がなく経費が掛からなかった。さらに、常勤スタッフが1名退職されたのでその分だけ人件費が減ったというところがある。

最後に、議長が本審議事項につき可否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認可決した。

■報告事項：2018年度事業計画書及び予算

議長が事務局に報告を求め、前田事務局長が2018年度事業計画書について説明を行い、次いで横田事務局員が2018年度予算について説明を行った。

以下、質疑応答。

大場評議員：昨年度の予算と比べて明らかな増減等あれば教えていただきたい。

横田事務局員：昨年度予算と比べると、人件費の部分以外は特にはない。



前田事務局長：昨年度決算と比べると、「5 その他、事業費用」の1)Ruby 開発及びその他支援事業 や
2)情報発信事業 のところを少し増やしている。1)に関しては、その他助成の応募があまり
ないようなら開発支援プロジェクトの採択件数を増やすことなどを検討しようと考えている。
2)に関しては、例年ビジネスセミナーの講師の方々には基本的に旅費だけでお願いしていた
が、謝金を出したほうがお願いしやすいのではないかと思いますのでそうしようと考えている。

■その他：Ruby アソシエーション開発助成成果報告会について

議長が事務局に報告を求め、前田事務局長が2018年7月7日(土)に品川で開催予定のRuby アソシエーション開発助成成果報告会の案内を行った。

■その他、意見交換など

前田事務局長：財団のウェブサイト上で常勤スタッフの募集をしているが、より効果的に募集をかけるためにはどういった媒体を利用すればよいか等、ご意見があればいただければと思う。

平松評議員：Facebook 広告は、やられていないのなら一度試してみられてもよいのではないかと。

大場評議員：協賛企業へのお知らせにご紹介のお願いを含めるとよいかも。

前田事務局長：RubyWorld Conference の予算の積立に余裕がある状態なので、効果的な使い途があればご意見をいただきたい。基調講演以外の一般講演は例年公募をかけていたが、今年度は招聘講演も何卒か用意することを検討しているところだ。

立久井評議員：東京にパブリックビューイング用のサテライト会場を設けて、招聘講演の何卒かは東京で講演してもらうなどするのはよいかも。

大場評議員：若い世代や学生をフューチャーした企画を何か考えられれば有意義かと思う。全国から来る教育関係者にもアピールできるとよい。

平松評議員：前後の日でそういった企画ができるとよいと思う。

井上副理事長：具体的な内容については若い人に考えてもらう方が、より喜んでもらえるものになるのではないかと。

高橋征義様：Ruby25周年記念イベントの感想等あればいただきたい。

前田事務局長：開催して良かったと思う。記念イベントで配布した冊子も好評だったので、予算化して継続的にアップデートしていきたいと考えている。

上記の議決を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2018年6月26日

一般財団法人 Ruby アソシエーション 評議員会

議長

平松 知江子



議事録署名人

石川 明



議事録署名人

大場 寧子



印

2017 年度（第 7 事業年度）

「事業報告書」 (案)

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

2017年度の当財団の活動は、利用者がRubyを安定して利用できるよう、また便利に使えるように、Ruby安定版保守業務、公募型開発プロジェクトの開発支援を昨年度に引き続き継続しました。また、Rubyを活用する企業や協力関連機関と共同でRubyのユーザーが集うイベント開催にも力を入れています。リアルなコミュニケーションの取れる機会を通じて、ユーザーの新たな出会いやビジネス推進の場になることを期待します。

当財団は、その目的であるRuby関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野におけるRubyの利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の2017年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2017年度評議員

- ・石川 明 (株)日立ソリューションズ
- ・出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム
- ・大場 寧子 (株)万葉
- ・後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・最首 英裕 (株)グルーヴノーツ
- ・立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・中島 宏 (株)DTS
- ・羽田 昭裕 日本ユニシス(株)
- ・平松 知江子 (株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
- ・森 正弥 楽天(株)
- ・吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト
- ・吉田 正敏 富士通(株)

2) 理事

- ・代表理事 理事長 松本 行弘
- ・副理事長 井上 浩
- ・理事 山根 泉
- 橋本 明彦
- 田中 和明
- 笹田 耕一

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 2 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長 立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、
田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、開発助成委員会で選考の結果、以下 4 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2018 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・ 応募件数：10 件
- ・ 採択件数 4 件

① 採択者：Prasun Anand	プロジェクト：GPU-accelerated Libraries for Ruby to handle very large datasets.
In this project, I would like to take another step to strengthen the Ruby ecosystem for Scientific software. The RbCUDA gem that I intend to develop would provide more flexibility power and control to a programmers/researchers/scientists to harness and optimize their solutions for GPU computing and run across all CUDA powered hardwares using Ruby. RbCUDA interface with NMatrix, Numo::Narray and ArrayFire which will make it easily adoptable for Rubyists. The main objective of RbCUDA would be to map all of CUDA into Ruby with minimal overheads and provide ready-made on-GPU linear algebra, reduction, scan routines using cuBLAS, cuSolver libraries.	
②採択者：Naotoshi Seo	プロジェクト：Implementation of Ruby/Cumo, a CUDA-aware version of Ruby/Numo
Ruby Numo (NUmerical MOdule) プロジェクトのうち、Future workとなっているCUDA対応版の実装を行う。Ruby Numoとインターフェースを合わせることにより、コードのごく一部を置き換えるだけで、GPUを使った高速化の恩恵が得られる状態を目指す。	
③採択者：松本亮介、他 6 名	プロジェクトmrubyを利用した軽量コンテナクラウド基盤の研究開発を介したmrubyの大規模・高負荷テスト
ウェブホスティングにおける突発的なアクセス集中などの高負荷への対応について、容易に利用できるレンタルサーバ（共用サーバ）では利用者側がリソースの制御を行うことが難しい一方、柔軟性の高い専用サーバーやVPSはサーバーの拡張作業	

や監視といった運用管理が継続的に発生するという課題がある。我々はこの課題に対して、軽量コンテナを基盤としたホストの起動・複製・終了・資源割り当て変更処理などをリクエスト単位程度の粒度で高速に実現するシステムの開発と、IaaSを用いた実運用に近い環境でのホスティングサービスの実証実験を通じて、次世代のホスティング環境基盤技術の研究開発を行う。これにより、高負荷時のスケールアップやコンピューティングインフラの増強・移行や、システムの再起動が必要なために滞りがちなセキュリティ更新や基盤ソフトウェアの入れ替え等が柔軟かつ自動的に行えるようになる。

④ 採択者：国分崇志	プロジェクト：より統一的で簡単なRubyのベンチマーク環境の実現
------------	----------------------------------

異なるRubyバイナリ間でパフォーマンスを簡単かつ正確に比較するためのベンチマークツール `benchmark_driver.gem` の機能拡充を行ないます。またより多くのRubyコアの機能が計測できるようベンチマークセットを増やし、このツールでベンチマークセットが継続的に実行される環境を用意することで、より早く確実にRuby 2の3倍高速化が実現できる環境を目指します。

2) その他助成

用途を限定しない助成金の申請窓口を設置し、公募型開発以外の分野でも助成を受け付けました。以下はその成果です。

(1) 開発合宿支援

次世代のRuby開発に向けてRubyコア開発者が集まって、開発や議論が行える場所を企画提供しました。

(2) RubyWorld Conference 2017 渡航費支援

Rubyコミュニティの交流促進を目的として海外からのカンファレンス参加者1名に対して旅費助成を実施しました。

Prasun Anandさん (インド 大学生)

3) Ruby安定版保守事業

ユーザーが安心してRubyを利用できる環境を構築するため、Ruby安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、昨年度に引き続き中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は2018年3月31日までです。また2017年度も引き続き、アメリカの非営利組織であるRuby Centralより本事業に対して助成金の交付を受けました。

4) Rubyに関する情報発信事業

(1) 事例紹介

協賛会員をはじめ、Rubyをビジネス利用する企業の企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報を作成しました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企

業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザーに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2017年度は新たに6件の利用事例を紹介しました。

2017年度掲載企業	テーマ
ラグル株式会社	販売から2年間で導入サイト数300に達したWebメディアサイト構築CMS
島根県松江市	Rubyを核としたプログラミング教育
株式会社日立ソリューションズ	作業実施依頼方法の改善～みんなが確実に実施!無駄な作業から解放!
株式会社富士通アドバンスドエンジニアリング	IoTゲートウェイをRubyで実装
リバティ・フィッシュ株式会社	RubyExamination (REx) をリリース
株式会社日本ハイソフト	化学物質のリスクアセスメントのパッケージをRubyで開発することにより短期間で実現

(2) RubyWorld Conference 2017 の開催

2017年11月1日(水)、2日(木)に島根県松江市で開催されたRubyWorld Conference 2017において開催実行委員会の構成団体として参加しました。

(3) Ruby ビジネスセミナー、イベント開催

①Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てイベントを開催致しました。これらのセミナーでは、Rubyの利用状況と今後のビジネストrendをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数(名)
2017年5月、東京	DataScience.rb ワークショップ ～ここま でできる Ruby でデータサイエンス～	約100名
2017年7月、東京	Ruby のパパ、まつもとゆきひろが語る Ruby の未来。	約100名
2017年9月、東京	IoT システムを Ruby で作ろう!GR-CITRUS でセンサープログラミング	約20名
2017年10月、松江	Ruby と mruby を活用したプログラミング教 育アイデアソン	約14名
2018年2月、東京	Ruby Business Users Conference	約90名
2018年3月、大阪	Ruby25周年記念講演、Rubyを利用したサー ビス開発の現状	約65名

②Ruby イベント開催

Ruby を利用、開発している団体と共同でイベントを開催もしくは後援しております。例 DataScience.rb、GR-CITRUS による IoT プログラミング、Ruby25 周年記念イベント。

(4) ジョブボード

昨年度から引き続き Ruby の求人情報を掲載できるジョブボードを提供しています。Ruby アソシエーションの協賛会員を中心とした Ruby の求人情報を掲載しております。(非会員企業も求人掲載可能)

(5) ウェブサイト

多言語化の取り組みの 1 つとして英語に引き続き、中国語のサイトを提供いたします。

4) Ruby技術者認定試験事業

2017 年度も受験者数拡大に向けた取り組みを行っています。学割は認知度向上に伴い、昨年度よりもより多くの受験者が学割を利用して受験をしています。また、学習教材については、認定教育機関であるリバティ・フィッシュ株式会社から無償で利用できる Rex がリリースされました。これにより合格率の向上が見込まれます。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分: Silver、Gold)、海外(試験区分: Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Ruby の高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Ruby の教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Ruby のサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Ruby アプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2018年3月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	32(29)	58(64)
認定教育機関プログラム	3(3)	3(1)
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	2(3)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

- ・会員資格

法人、任意団体及び個人

- ・会員種別、会費

年会費 1口 10万円 (4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上 (50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上 (20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上 (10万円以上)

2018年3月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間 5 口以上	Gold : 年間 2 口以上	Silver : 年間 1 口以上
13(12)	21(21)	45(49)

※()内は前年度数

決 算 報 告 書

(第 7 期)

自 2017年 4月 1日
至 2018年 3月31日

一般財団法人Rubyアソシエーション

貸借対照表

2018年 3月31日現在

(2017年度 第7期)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	39,808,824	37,496,603	2,312,221
未収金	808,591	1,027,494	△ 218,903
前払費用	0	9,300	△ 9,300
流動資産合計	40,617,415	38,533,397	2,084,018
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
固定資産合計	3,000,000	3,000,000	0
資産合計	43,617,415	41,533,397	2,084,018
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,759,938	4,010,832	△ 250,894
未払消費税等	473,700	231,300	242,400
預り金	30,701	71,023	△ 40,322
流動負債合計	4,264,339	4,313,155	△ 48,816
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	4,264,339	4,313,155	△ 48,816
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	3,000,000	3,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	36,353,076	34,220,242	2,132,834
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	39,353,076	37,220,242	2,132,834
負債及び正味財産合計	43,617,415	41,533,397	2,084,018

正味財産増減計算書

2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

(2017年度 第7期)

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	636	637	△ 1
事業収益	15,692,452	16,367,383	△ 674,931
受取協賛金	15,000,000	15,120,000	△ 120,000
受取補助金	1,125,800	1,036,900	88,900
受取寄付金	409,753	101,078	308,675
受取利息	360	745	△ 385
経常収益計	32,229,001	32,626,743	△ 397,742
(2) 経常費用			
事業費			
給与手当	3,292,557	3,777,567	△ 485,010
法定福利費	582,212	687,581	△ 105,369
旅費交通費	1,035,540	839,645	195,895
通信運搬費	179,699	292,672	△ 112,973
消耗品費	348,562	90,355	258,207
水道光熱費	23,902	23,354	548
支払手数料	5,282,369	5,555,392	△ 273,023
賃借料	842,026	883,292	△ 41,266
広告宣伝費	86,874	790,950	△ 704,076
租税公課	475,900	556,100	△ 80,200
支払負担金	1,000,000	1,000,000	0
支払助成金	2,266,269	2,992,198	△ 725,929
委託費	6,877,892	8,086,087	△ 1,208,195
雑費	55,852	12,778	43,074
管理費			
役員報酬	600,000	600,000	0
給与手当	3,292,557	3,777,567	△ 485,010
法定福利費	582,212	687,581	△ 105,369
会議費	3,916	2,300	1,616
旅費交通費	466,550	288,975	177,575
通信運搬費	114,472	124,287	△ 9,815
消耗品費	128,726	82,971	45,755
水道光熱費	23,901	23,354	547
諸会費	2,646	2,646	0
支払手数料	310,182	287,500	22,682
賃借料	540,024	526,224	13,800
租税公課	11,480	1,200	10,280
委託費	1,500,000	1,500,000	0
雑費	169,847	118,929	50,918
経常費用計	30,096,167	33,611,505	△ 3,515,338
当期経常増減額	2,132,834	△ 984,762	3,117,596

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,132,834	△ 984,762	3,117,596
一般正味財産期首残高	34,220,242	35,205,004	△ 984,762
一般正味財産期末残高	36,353,076	34,220,242	2,132,834
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	3,000,000	3,000,000	0
指定正味財産期末残高	3,000,000	3,000,000	0
III 正味財産期末残高	39,353,076	37,220,242	2,132,834

財 産 目 録

2018年 3月31日現在

(2017年度 第7期)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	202,506
預金	普通預金	運転資金として	
	山陰合同銀行松江駅前支店		39,606,318
未収金		事業収益の未収分	808,591
流動資産合計			40,617,415
(固定資産)			
基本財産 定期預金	定期預金		
	山陰合同銀行松江駅前支店	運用益を事業の財源として	3,000,000
固定資産合計			3,000,000
資産合計			43,617,415
(流動負債)			
未払金		助成金の未払分	1,907,978
		委託費の未払分	1,143,431
		その他事業費及び管理費の未払分	708,529
未払消費税等		未払消費税等	473,700
預り金		源泉所得税、住民税の預り分	30,701
流動負債合計			4,264,339
(固定負債)			
固定負債合計			0
負債合計			4,264,339
正味財産			39,353,076

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

2. 基本財産及び特定資産の増減及びその残高

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
小計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
	0	0	0	0
小計	0	0	0	0
合計	3,000,000	0	0	3,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000	(3,000,000)	(0)	(0)
小計	3,000,000	(3,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
	0	(0)	(0)	(0)
小計	0	(0)	(0)	(0)
合計	3,000,000	(3,000,000)	(0)	(0)

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細については、財務諸表に対する注記2.「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」に記載しているため、その記載を省略している。

監査報告書

一般財団法人 Ruby アソシエーション
理事長 松本 行弘 殿

平成 30 年 6 月 8 日

一般財団法人 Ruby アソシエーション
監事 今岡 正一



私は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

1) 事業報告等の監査結果

- (1) 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2018年度 事業計画書」

2018年4月1日から
2019年3月31日まで

2018年3月31日
一般財団法人 Ruby アソシエーション

目次

はじめに	3
1 組織体制	3
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby開発及び、その他支援事業	3
2) 情報発信事業	4
3) Ruby技術者認定試験事業	5
4) 事業者認定事業	5
5) 標準維持事業	5
6) 協賛会員事業	5
7) 寄付事業	6
3 関係機関との連携	6
1) 松江市、島根県	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
4 その他関係資料	6

はじめに

一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2017 年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

当財団を支援する協賛会員も順調に増えるなど、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」が更に広がっています。

この「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2018 年度も様々な事業に取り組めます。

1 組織体制

1) 評議員

引き続き評議員 13 名の体制で、法令、定款に定める権限を行使します。

2) 理事

引き続き理事 6 名の体制で、定款の定めるところにより財団を運営します。

3) スタッフ

常勤スタッフ 2 名の体制を継続できるよう、現在常勤スタッフを 1 名募集しております。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 開発及び、その他支援事業

(1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

(2) その他の助成

用途を限定しない助成金の申請窓口を設け、開発用の設備購入費用やサービス利用料、カンファレンスや開発会議への参加費用など、公募型開発プロジェクト以外の幅広い活動に対する助成を行います。

(3) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby 処理系の保守を行います。

(4) サーバー運営費支援

Ruby コミュニティが運用しているサーバー運営費、Slack 有料プランの利用に対して資金面での支援を行います。

2) 情報発信事業

(1) Ruby 情報提供

①利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

②技術情報の紹介

現在提供している「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」について古くなった情報については部分的な更新や削除を行い精度向上に努めます。

③教育分野での Ruby 活用

Ruby の教育分野での取組みに対して情報発信を行います。若い世代に対して Ruby 学習者の裾野を広げていきます。

(2) RubyWorld Conference 2018

2018 年は、11 月 1 日（木）、2 日（金）に島根県松江市にて開催します。当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会によって企画、運営をします。

この Conference は、Ruby のビジネス利用を中心とした国内最大のイベントとして評価されています。当財団は、今年度以降も Conference を継続して開催するために、関係機関と協調し、役割を果たします。今年度も、従来同様に「Ruby Eco System（Ruby の持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Ruby の先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

(3) Ruby Prize

RubyWorld Conference2017 で実施した Ruby Prize について、今年度も開催することを松江市等と検討します。

(4) イベント開催

東京、大阪、その他の都市で価値ある情報を提供するイベントを開催します。Ruby の活用事例を紹介するビジネスセミナーや、Ruby エンジニア向けのテックイベントを企画します。2018 年度も 5 回程度の開催を予定しています。なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

(5) 宣伝広報活動

当財団の活動内容を幅広く周知することを目的に国内外における宣伝広報活動を強化します。情報を整理して発信することにより財団の目的と活動内容をよりわかりやすく読者に伝えます。また海外向けに英語を中心としたコンテンツの拡充にも努めます。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold version 2.1」、又は「同 Silver」として認定します。また、教育機関が本認定試験を積極的に利用する動機となるような情報の提供を行ってまいります。

4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高い Ruby に関連したサービスを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

(1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する事業者を登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、

教材として「Ruby 公式資格教科書 Ruby 技術者認定試験 Silver/Gold 対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間 2 回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、Ruby のサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、2012 年春、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団は、規格文書の保守及び改訂作業を行います。

6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

(1) Platinum Sponsor	5 口以上 (50 万円以上)
(2) Gold Sponsor	2 口以上 (20 万円以上)
(3) Silver Sponsor	1 口以上 (10 万円以上)

2018 年度は、Platinum Sponsor として 14 社、Gold Sponsor として 25 社、また、Silver Sponsor として 50 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて、「Ruby Association Supporters」と称して寄付を募集いたします。当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 松江市、島根県

当財団は活動の拠点 (主たる事務所) を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2018 年度も同フォーラムの情報発信事業 (特に利用事例の公開) と連携した取り組みを進めます。

3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ①一般社団法人 日本 Ruby の会
- ②福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム
- ④一般社団法人 Ruby ビジネス推進協議会
- ⑤Ruby Central
- ⑥その他、国内外の機関

4 その他関係資料

2018 年度予算を別に掲載します。

2018年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 予算

単位:千円

		2017年度 決算①	2018年度 予算② (2018/3/16理事会承認)	②-①
1 売上高				
	1)Ruby技術者認定試験	12,789	13,665	876
	2)事業者認定事業	2,650	3,050	400
	3)その他事業収入	253	176	-77
	小計	15,692	16,891	1,199
2 特別利益(協賛金、寄附金)				
	1)協賛会員	15,000	17,000	2,000
	2)寄附金	405	104	-301
	3)補助金	1,126	1,080	-46
	4)その他	5	0	-5
	小計	16,536	18,184	1,648
3 雑収入				
	1)預金利息 等	1	2	1
4 売上原価				
	1)Ruby技術者認定試験	5,542	5,930	388
	2)事業者認定事業	163	100	-63
	3)その他	0	0	0
	小計	5,705	6,030	325
5 その他、事業費用				
	1)Ruby開発及びその他支援事業	6,576	7,752	1,176
	2)情報発信事業	3,591	5,100	1,509
	3)標準維持事業	34	300	266
	小計	10,201	13,152	2,951
6 役員報酬				
	監事報酬	600	600	0
	小計	600	600	0
7 販売費及び一般管理費				
	1)職員人件費	7,749	10,700	2,951
	2)賃借料(事務所+駐車場)	1,057	1,140	83
	3)旅費交通費(出張費)	466	450	-16
	4)通信運搬費(電話代、郵便代)	121	120	-1
	5)消耗品費(事務用品他)	129	240	111
	6)会議費	4	10	6
	7)使用料	54	60	6
	8)租税公課(消費税、印紙代)	485	682	197
	9)手数料	340	360	20
	10)委託費	3,000	3,000	0
	11)報償費		0	0
	※諸会費			0
	※雑費	185	500	315
	小計	13,590	17,262	3,672
8 総収入				
		32,229	35,077	2,848
9 総支出				
		30,096	37,043	6,947
10 税引前当期純利益				
		2,133	-1,966	-4,099
11 当期法人税				
		0	0	0
12 当期純利益				
		2,133	-1,966	-4,099
13 利益剰余金				
		39,353	37,387	-1,966
※協賛会員数				
	Platinum Sponsor (50万円)	13	14	1
	Gold Sponsor (20万円)	21	25	4
	Silver Sponsor (10万円)	45	50	5

